

安全かつ観客から 楽しんでもらうための花火演出を

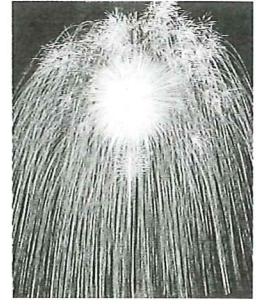
有限会社 片貝煙火工業

代表取締役 本田 正憲
〒947-0101 小千谷市片貝町6529-1
TEL (0258) 84-2076 FAX (0258) 84-3516

業種：煙火
資本金：1000万円

中越地震で被災した地域の復興を願い、例年どおり片貝町では、今年も元旦と1月15日の「さいの神」で、見事な花火が打ち上げられた。片貝町の人たちが花火にかける情熱は熱く、想いは強い。

9月に行われる「片貝まつり」では、地元の人々の願いを込めた花火が次々と夜空に打ち上がる。その中でも、心臓にまで響く大きな音と見事な大輪を咲かせる四尺玉は、観る人を魅了してやまない。この世界一の大きさを誇る四尺玉を製作しているのが、片貝煙火工業。同社の本田社長は、片貝まつりや柏崎まつりの花火打ち上げの他、コンサート等での花火演出も手掛けている。そこには、職人として花火の技を競う以上に、安全かつ観客を満足させる演出へのこだわりが感じられる。

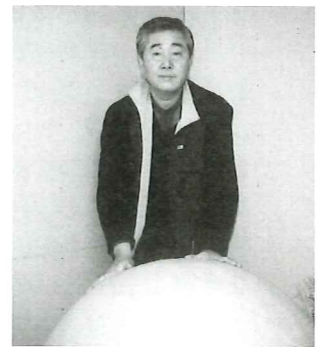


▲世界一の四尺玉

安全で観客から楽しんでもらうための演出を

「花火はロケーションと一体であることが最も重要です。海、川、山など打ち上げる場所や風向き等で、花火の見え方、反響音、危険度合いが全く異なるからです。それらを考慮し、最大限活用して花火を打ち上げることで、観ているお客さんの心を惹きつけることができるのです」と、本田社長は「安全かつ観客から楽しんでもらうための花火の演出」を第一に考える。

本田社長が片貝煙火工業を継いだのは、昭和60年。それまでは食品会社の営業マンとして東京や大阪で活躍してきた。そこで培ってきた顧客第一のビジネス感覚が、今日の会社経営でも貫かれている。



▲本田社長と四尺玉

危険に対する知識をしっかりと身に付けさせる

また、本田社長はこれまでの花火師育成方針にも疑問を持つ。「花火師は火薬を扱う危険な職業です。『先輩の技を盗んで覚えろ。職人は勘と経験だ』だけでは、危険に対する知識はなかなか育ちません。安全面を考えれば、しっかり指導し身に付けさせることが我々の役目。その上で、勘と経験を活かせば、より早く優れた花火師に成長するのではないのでしょうか。」

花火は進化させていくもの

さらに、花火は「進化させていくもの」だと本田社長は言う。「新型花火の開発はもちろん、古き良き花火を、現在の技術を活用して現代風にアレンジすることも『進化』です。今、我々ができることを追求し、前に進んでいかなければいけないのです」。

なお、同社では、独自にコンピュータを使った花火打ち上げのシュミレーションソフトを開発。花火の構造や打ち上げた時の開き方、「星」の飛散の仕方などが画面上に再現でき、新型花火の開発、若い花火師への教育に役立っている。



▲片貝煙火工業内にある
打ち上げ筒